

神戸観光地・北野地区の景観分析

アジア航測株式会社	正会員	○竹内	陽
大阪工業大学	正会員	吉川	眞
大阪工業大学	正会員	田中	一成

1. はじめに

わが国は、戦後の高度経済成長を迎えると急速な経済発展や生活環境の向上により、画一的で大規模な都市開発が行われた。その結果、都市がもつ独自の個性は軽視されてきた。しかし神戸市は、1978年に国内で4番目となる都市景観条例を制定するなど、景観を意識した魅力ある都市づくりが早くから取り組まれてきた都市である。現在では、旧居留地や南京町などの歴史的街並み、海岸沿いのウォーターフロント、ファッションや料理など、観光地としての要素が豊富に存在し、魅力のある都市となっている。

神戸市が行った2003年の他都市に向けたイメージ調査では、港が30.2%、異国情緒が28.7%となっていることから、神戸の個性を活かしたまちづくりが行われていることがわかる。なかでも北野地区は、全国的に有名な観光地であるとともに伝統的建造物群保存地区に指定されるなど、神戸を代表する地区の一つといっても過言ではない。今後もこのような神戸特有の資源を維持・保存し、地区それぞれの個性を重視したまちづくりが必要である。

2. 研究の目的と方法

神戸市の都市景観条例の前文に、「私たち市民は、この神戸らしいまちの景観を守り、育て、新しい神戸らしさをつくりだし、自らが住み、働き、憩う私たちのまちを個性豊かで快適なものとしたい」と記されている。このことから神戸市は「神戸らしさ」を考えた個性を重視したまちづくりを目指している、ということが伺える。しかし、神戸のなかでも地区ごとにそれぞれの個性がある。歴史的建造物についても、その歴史背景に沿った維持・保存、その地区に合った考え方が重要であり、今後も歴史ある景観の創出が求められる。そこで本研究では、神戸を代表し、明治期からの歴史的景観の残る北野地区を伝建地区と観光地の両面で分析することで、歴史的な価値と個性を明確にすることを目的としている。具体的には、GISとCAD/CGといった空間情報技術を統合的に使用した分析を行い、北野地区の景観にアプローチしている。

3. 神戸夜景百選の類型化

まず、神戸らしい景観タイプを把握するため、神戸夜景百選の類型化を行った。結果として、視点依存型一拡散型が最も多く存在し、これが神戸の典型的なタイプと考えられる。とくに六甲山系と山麓から港方面を眺めるといったパノラマ景観が多く選定されている。市内にも、高層ビルや展望台といった視点場になりうる要素が数多く存在していることから、パノラマ景観は神戸市民にとって身近な景観といえる。なかでも北野地区は、視点場として大きな役割を担ってきた。この地区は、明治初期、居留地の整備と同時期に「港見晴台」が設置され、その後、港や居留地を眺めることのできる地に多くの外国人が移り住んだという歴史をもっている。

一方、神戸市が平成14年に行った観光プロモーション調査では、港のイメージとともに観光地のイメージも高い結果が得られている。くわえて、「代表する観光地」、「行ってみたいところ」の調査結果でも、北野異人館が上位に挙がっている。神戸といえば北野というイメージが、市民のなかではとくに高いと考えられる。したがって、パノラマ景観が得られる視点場としては、北野地区が神戸の中でも最も歴史が深く、現在でも、その歴史が受け継がれている地区であると考えた。さらに、北野地区は、歴史的な価値とともに地域特有の個性を生み出す新たな都市デザイン・景観デザインが、今もなお進行中の地区であることから詳細に分析する必要があると考えた。

4. 神戸・北野地区の景観分析

北野地区は、港を対象として眺めるための場、すなわち視点場として形成された住宅地である。しかし、現在では、現存する歴史的建造物を対象として眺める空間、すなわち観光地化している。そこで、歴史的建造物の分布する空間にどれ位の人々が訪れているのかを把握している。入込人数の実測調査データを用いて、観光客の空間分布を効率的かつ客観的に評価することを試みている。観光客は、街路というネットワーク空間を移動するため、ネットワーク空間分析を行うことでより現実に対応した結果を得ている（図1）。

次に、街路上から眺めた歴史的建造物の被視頻度値を算出するため、航空機レーザー測量データを活用して3次元都市モデルを構築し、1mグリッド・サイズの数値表層モデル（DSM：Digital Surface Model）を生成している。対象地区は急斜面地形のため、歴史的建造物の壁面は見えなくても、屋根は見えるといった特徴があるため、屋根形状を付加したモデルを作成している。また、街路上から眺めた港の被視頻度値も算出することで、地区内でも良好とされる視点の抽出を行った（図2）。さらに、明治時代の3次元都市モデルを作成し、現代と対比することで見え方の違いを把握している（図3）。

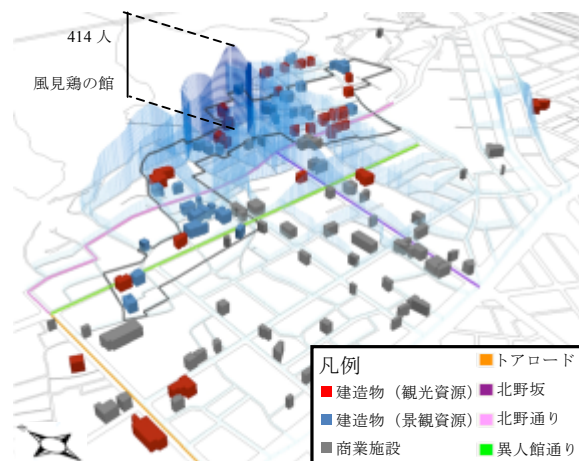


図1 歴史的建造物と港の被視頻度値結果

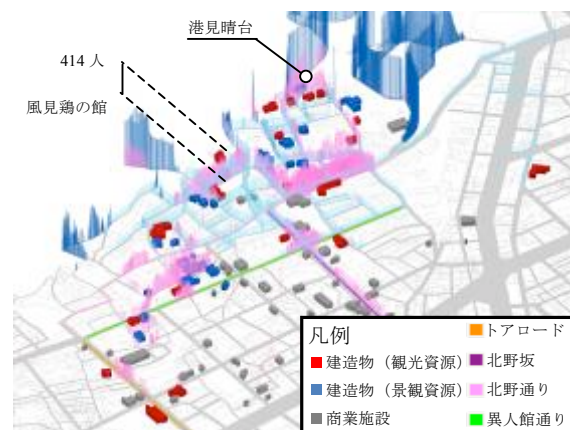
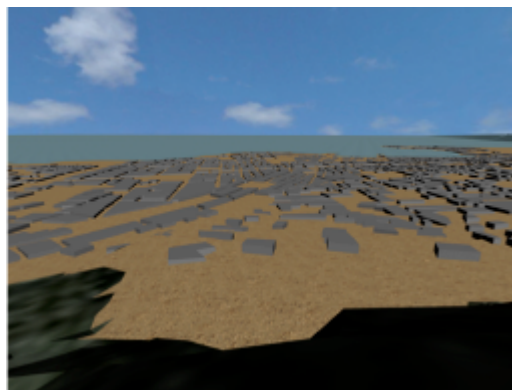


図2 歴史的建造物と港の被視頻度値結果



(a) 現在の港見晴台からの眺め



(b) 明治期の港見晴台からの眺め

図3 景観シミュレーション

5. まとめ

本研究では、神戸夜景百選の類型化により典型的なタイプを抽出するとともに、神戸の景観を代表的する場として北野地区を選定した。この北野地区で観光客の分布状況とともに、街路上から眺められる対象として歴史的建造物と港の被視頻度値を定量的に分析することで、良好な視点場を抽出している。さらに、3次元都市モデルを用いた景観シミュレーションを行うことで、明治時代の歴史的価値のある景観の眺めと現代空間との対比を行うことができた。

参考文献

- ・ 竹内陽, 吉川眞, 田中一成: 神戸・北野地区における景観分析, 地理情報システム学会講演論文集, Vol.18, pp.263-266, 2009